◆中学生海外派遣交流事業~in New Zealand~◆

− Come on everyone, get used to it rather than learn it! −

佐賀･大方中学校を対象とした中学生海外派遣交流事業が8月3日（月）～8月12日（水）に行われました。今年も選考された生徒10名（佐賀中学校2名･大方中学校8名）がニュージランド（以下、NZ）での充実した研修を行い、無事帰国しました。

8月3日（月）・4日（火）

【出国・移動】

佐賀の総合センターにて、壮行式に出席。家族や教育委員会職員に見送られ、いざNZへ！成田空港からオークランド空港までは約10時間のフライト。午前9時15分到着（日本との時差3時間）。移動時間が長い+機内泊だったため若干の疲れが見られるものの、移動もスムーズで全員無事にNZへ到着しました。移動中のミッション（都度リーダーを決めて英語案内表示を見ながらみんなをリードなど）を通じ、生徒たちは行きの道中から早々、自主的に考えて行動する頼もしさを見せてくれました。ハミルトン市に到着後、お世話になるホストファミリーと緊張の初対面。温かい英語のあいさつと自己紹介でホームステイがスタートしました。

ホストファミリーと合流

8月5日（水）・6日（木）

【ホームステイ&フェアフィールド中学校交流】

翌日のフェアフィールド校での歓迎式では、現地生徒による迫力ある「ハカ」や歌で熱烈な歓迎を受けました。黒潮町の生徒たちは、事前学習で練習を重ねた「国歌斉唱」と日本の夏の風物詩といえばの盆踊り「鹿島一声」のパフォーマンスを大観衆の中で堂々と披露しました。現地生徒たちも2回目に一緒に踊ってくれ、大きな拍手と感動を呼びました。

フェアフィールド中学セレモニー

フェアフィールド中学交流の様子

黒潮町の紹介の様子

現地校滞在中は黒潮町の生徒一人ひとりに「バディ」と呼ばれる現地生徒が付き、行動をともにしてくれました。日本の学校と比べて休み時間が長く、10時半頃のモーニングティータイムにはお菓子などの軽食を食べることが習慣になっています。事前学習でそれぞれの生徒が事前に決めていた探究テーマをもとに、バディにNZの文化や自然、習慣についてインタビューし、会話を深めるなど、実践的で質の高い交流を展開しました。最終日には国際交流の実践を証明する修了証と、思い出に残る記念品も受け取りました。

8月7日（金）・8日（土）

【ホストファミリーとの休日フリーデー】

休日にはホストファミリーとNZならではの自然や家庭生活を楽しんだようです。また、自国や黒潮町の写真をスマートフォンで見せたり、ビデオ通話で互いの家族を紹介したりと、言葉の壁を越えた心温まる交流が行われました。

8月9日（日）・10日（月）

【視察研修・まち探検ミッション】

ホストファミリーとの別れの際には涙する生徒もおり、濃厚な時間を過ごしたことが見受けられました。その後、ロトルアへ移動し、間欠泉を見たり、農場で羊にエサやり体験をしたり、マオリ民族のショーを見たり、NZらしさを満喫しました。オークランド市内では、某テレビ番組の出川のはじめてのおつかい風ミッションを実施し、大成功！生徒たちが英語を使い、現地の人々にインタビューをし、目的地までの散策を成し遂げたことは、大きな自信に繋がりました。

【結びに】

約30年にわたり築かれてきたフェアフィールド校との強い絆は、現地でも特別なものとして大変大切にされています。温かく迎え入れてくださったホストファミリー、学校関係者の皆さん、そして現地ガイドの方々に心より感謝申しあげます。

自ら考え行動し、挑戦する力とグローバルな視野を身につけた生徒たちが、今後も自分の言葉で発信し続け、この経験をこれからの成長と人生の糧にしてくれることを期待しています。

集合写真

派遣団団長
教育委員会教育研究所
横内　悠

佐賀中学校 3年　喜多（きた）　ひなた

8月の3日から12日の10日間、私は海外派遣事業に参加し、ニュージーランドに行っていました。知らない世界へと足を降ろすのが怖かったですが、ニュージーランドはそれがどうでもよくなるほど素敵な場所でした。

10日間の間に、私たちはニュージーランドの北島のあちこちへ行きました。3日間観光、5日間ホームステイでその内3日間は学校がありました。

学校の敷地はとても広く、運動場が校舎よりも広かったです。休み時間には大勢の生徒が外に遊びに出ました。人見知りで立つことしかできなかった私に優しく声をかけ、一緒にバレーをしてくれた生徒がたくさんいました。学校の中で一人ぼっちになっていた子は一人としておらず、皆が絶対誰か一緒に居ました。一人ぼっちを作らないという考えが行き届いていることに、私は素敵だと思いました。

これから私は、ニュージーランドの子たちのように、誰とでもフレンドリーに仲良くしていきたいと思います。

大方中学校 1年　石橋（いしばし）　愛海（あみ）

ニュージーランドでの滞在を通じ、日本との文化や価値観の違いを肌で実感しました。特に印象的だったのは現地学校の自由な雰囲気です。広い芝生で裸足になって無邪気に遊ぶ姿からは、周囲の目を気にせず自分の感情や主体性を伸び伸びと表現する心地よさを感じました。

日本は「規則だから」「周りがどう思うか」を優先して行動しがちだと感じていた私にとって、自分らしく伸び伸びと過ごす現地の姿はとても新鮮でした。文化の違いや言葉の壁にぶつかった場面もありましたが、違いを認め合い受け入れる柔軟さを学ぶ大きな機会となりました。

他人の評価にとらわれず自分を表現すること、そして異なる価値観を尊重することの大切さを学んだこの経験を、今後の生活やコミュニケーションにしっかり生かしていきたいです。

佐賀中学校 3年　辻（つじ）　心々絆（ここな）

私は8月3日から10日間、ニュージーランド派遣事業へ参加し、貴重な体験をすることができました。初めての海外で、言葉や文化の違いもあり、出発前はとても緊張していました。しかし、実際にニュージーランドで生活し、学校での授業や休み時間、放課後、休日などを過ごす中で、日本とは違う文化や生活に触れることができました。また、実際にキーウィバードを見たり、さまざまな場所を訪れたりすることで、写真や本で知るだけでは分からないニュージーランドの魅力を感じることができました。

今回の研修を通して、私はこれまで以上に英語や世界に興味を持つようになりました。これらの経験をこれからの学校生活や将来につなげ、自分のやりたいことをより明確にしながら、さまざまなことに挑戦していきたいです。

大方中学校 1年　ディロン　ジャラ

僕は、8月3日から10日間ニュージーランド研修に行ってきました。小学校からずっと楽しみに待っていた活動で研修に行けるとなるとすごくうれしかったです。今回の研修で海外は7回目でしたがホームステイをするのは初めてでした。僕はすごく不安で怖かったですが、ホストファミリーに会ってみると優しく声をかけてくれて不安が一気に消えました。

ニュージーランドは冬で、−2℃になる時期でしたが、ホストファミリーがブランケットを追加で用意してくれ大丈夫でした。

今回の研修を通してニュージーランドのすばらしい文化や歴史などにふれ、ホストファミリーと一緒に生活をして現地の言葉に苦労したこともあったけどすごく貴重な体験でした。今回、このすべての経験を将来に生かしていきたいと思います。貴重な体験をさせていただき、本当にありがとうございました。

大方中学校 2年　早瀬（はやせ）　虹花（にか）

今回のニュージーランド研修を通して、日本とニュージーランドにはさまざまな違いがあることを発見しました。まず日本では周りとの調和や、みんなと同じであることが大切にされる傾向がありますが、ニュージーランドでは、一人ひとりの個性や自分らしさ、自由が大切にされると感じました。

また学校生活では、日本は先生と生徒の間にきょりがありますが、ニュージーランドでは先生と生徒とのきょりが近く、とてもフレンドリーな関係にあると感じました。さらに食文化にも違いがあり、日本では栄養バランスや健康を考えた食事が多いですが、ニュージーランドでは甘いものが多く、自分の好きなものを自由に楽しむ文化を感じました。私はオーストラリアで育ちましたが、オーストラリアとニュージーランドは似ています。今回学んだ二つの国の違いそれぞれの良いところを、わたしのこれからの人生に生かしていきたいです。このような機会をいただきありがとうございました。

大方中学校 3年　岡﨑（おかざき）　心虹（ここ）

私はこのニュージーランド研修を通して、異文化と触れ合ったことで、世界により興味を持つようになりました。

初めは、英語が聞き取れなかったり、自分の言いたいことがうまく通じなかったりして、悔しい思いをしました。しかし、日が経つごとに少しずつコミュニケーションを取ることができるようになり、自分から話しかけることにも自信がつきました。この経験から、英語は文法や単語を完璧にすることだけではなく、「相手とたくさん関わりたい」と思う気持ちが大切なのだと学びました。

今回の研修で得た自信をこれからの学習にも生かし、もっと英語を勉強したいです。将来は英語を使った職業に就いたり、高校でも留学したりして、もっともっと世界のいろいろな人と関わっていきたいです。貴重な体験をさせていただいきありがとうございました。

大方中学校 3年　喜多（きた）　陽梨（ひなり）

私が感じた日本とニュージーランドの文化、学校生活の相違点は、日本は周囲との調和や集団で動くことに重きを置いているのに対して、ニュージーランドは個人が考えを述べることを尊重し、各々の意見の違いを明らかにする傾向が強い点です。学校訪問では、受身の対話が染みついている私にとって現地生徒の積極的な姿勢に初めは戸惑いましたが、両国の先生方の手助けのおかげで英語を用いて楽しくコミュニケーションを図ることができました。特に感銘を受けたのは、マオリの伝統的な表現文化である「ハカ」を教わったことです。部族の誇り、相手への歓迎、祝福、弔い、節目の場でも行われるハカを間近で見た際には、ニュージーランドという国家の誇り、民族の力強い団結力を感じました。

大切な公費でこのような貴重な機会を与えてくださった黒潮町の全ての方々にお礼を申しあげますとともに、私を温かく迎えてくれた現地ホストファミリーに心より感謝いたします。

大方中学校 3年　大原（おおはら）　幸歌（さちか）

私は、8月3日から12日までの10日間、ニュージーランド海外派遣に参加させてもらいました。最初はうまく話せなかったらどうしよう。とか伝わらなかったらどうしよう。という不安と緊張感をもっていました。でも、憧れの初海外ということもあり、少しずつ、不安や緊張感もなくなっていきました。

ホストファミリーの方と初めて会ったときは、とてもフレンドリーに出迎えてくれて、うれしかったです。また、初めての体験をたくさんさせてくれて、ニュージーランドの生活を実感することができました。

ニュージーランドの伝統的なおどりであるハカも毎日のように見れて、マオリ文化に触れることができました。

今回の研修で学んだことや感じたことを生かして、もっと英語の勉強を頑張りたいし、将来は、言語を超えて交流し、お互いの文化を尊重できる広い視野をもった人になりたいです。

大方中学校 3年　小谷（おだに）　葉日（はに）

今回の研修で私はたくさんの貴重な経験をさせてもらいました。出発前は初めての海外ということにとてもワクワクでいっぱいでした。一方で慣れない英語で生活に不安を抱えていました。

ホームステイ1日目は英語を聞き取ることで精一杯でした。話したいことも英語では思うように伝わらずとても困りました。でも日にちが経つうちに少しずつ聞き取れるようになったり、ジェスチャーも交えながら話せるようになってきてとても嬉しかったです。

ニュージーランドの人たちはとても温かい人たちばかりで日本と似ているなと感じました。なのでとても生活しやすかったし、安心して過ごすことができました。

この研修を通して感じたことは現地の人と英語で話すことで自分の英語力はグングン伸びていくし、自分がまだ知らなかったほかの国の文化をたくさん学べたということです。私は将来英語で世界の人々と交流したいです。

大方中学校 3年　樋口（ひぐち）　歌子（うたこ）

私は、このニュージーランド研修で過ごした時間を絶対に忘れられません。特に、ホームステイ先での思い出です。私は初日、とても緊張していて遠慮しがちでホストファミリーにも距離がありました。

でも、初めてホストファミリーの家に入った時、リビングにギターが置いてあるのを見つけて「私もギターしてるよ」と伝えたら、バディの子が「一緒に弾こう」と言ってくれて、いっしょにギターを弾きました。私はこの出来事のおかげでバディやホストファミリーとも一気に距離が近くなりました。やっぱり外国でも音楽で通じることはできるんだと嬉しくなりました。

私はその時から緊張が和らいで自分の慣れない英語で必死にコミュニケーションを取りました。

音楽がくれた最高の学びと絆を大切にして、ニュージーランドにいる大好きな家族に、いつかまた会いに行きたいです。